

令和6年度 総務常任委員会視察報告書

1 参加委員

(委員長) 阿部英光 (副委員長) 早川仁美

(委員) 岸正明 (委員) 金田俊信 (委員) 水島誠司 (委員) 柁木太郎

2 視察日時

令和7年2月12日(水曜日) 午前10時00分から午前11時30分まで

3 視察先

福岡県糸島市

4 視察事項

(1) 移住・定住促進策及びその広報戦略について

5 視察概要

	(担当 早川 仁美)
視察先選定理由	福岡県糸島市は、イギリスの情報誌『MONOCLE(モノクル)』が2021年に発表した、住みやすい小さな街ランキングで福岡県糸島市は世界3位に選ばれている。糸島市は福岡県の最西部に位置し、海と山に囲まれた豊かな自然と、福岡市中心部まで車で約30分、福岡市営地下鉄空港線と直通しているJR筑肥線で天神、博多駅、福岡空港まで乗換なしというアクセスの良さが国内外から注目され、移住者が増えている。糸島市は2018年以降、人口を増やし続けており、2022年の転入超過数は896人、2023年は437人となっており、立地などの条件が茅ヶ崎市と似ており、移住・定住促進策とその広報戦略について学ぶべきところが多いのではないかと理由より選定した。
内 容 ・事業概要 ・効果、推移 ・課題	<ol style="list-style-type: none">糸島市の特徴 福岡市中心部への便利な交通アクセス、豊かな自然、新鮮な食材 土地の安さ、地域コミュニティ(伝統文化、地域の絆) 九州大学の移転による大学周辺まちづくり人口 令和6年3月末 103,655人 平成28年に10万人を切り、落ち込んだ人口が翌年から徐々に増え現在に至る 出生率は下がっているが、子育て世代の社会増が増加してきた 転入出の状況は、同じ生活圏での転入・転出が多い空き家対策 ・空き家バンク～H25年度から開始96件の登録79件の成約 成約率82% 移住希望者の居住の受け皿 所有者が空き家を有効活用する入り口 特定空き家になる前の活用手段 ➤ 市場に出さないで市に登録をする理由 売りに出しているのを知られたくない

借り手はだれでもいいわけではない

- ・戸建て住宅ニーズバンク
家を探している人が家の希望条件を市HPで広く発信
- ・空き家オーナー相談会
- ・空き家活用推進補助金
空き家の売却や賃貸するための相続登記や家財撤去をする空き家の所有者に費用の一部をサポート 最大30万円

4. 結婚支援

- ・糸島市結婚新生活支援金 39歳以下最大30万円、29歳以下最大60万円
対象となる費用～住宅取得費用、改修費用、賃貸費用、引っ越し費用
- ・いとしま出会いサポートセンター
2021.9.3～金、土、日開所

5. 移住・定住支援

- ・マイホーム取得奨励金制度（令和4年度終了）
市内で住宅を取得した人を支援し、転入促進と転出抑制の双方に効果
市内で住宅を取得し、定住した人に対し、建物の固定資産税相当額を商工会商品券で3年間交付
- ・きっとみつかる「糸島しごとさがし」サイト
市内の企業、事業所と仕事を探している人とのマッチングをサポートする糸島市公式の就職支援サイト
- ・創業支援
起業したい人、起業して間もない人
 - ☞ ワンストップ創業相談窓口～創業に関する相談
 - ☞ 創業塾～創業に必要な基礎知識の講座
 - ☞ 新規起業者リフォーム補助金～改装費用の1/4、上限30万円
 - ☞ 利子補給～利息上限5万円まで助成
- ・オンライン移住相談会
 - コロナ禍でも、自宅から気軽に参加可能糸島市の紹介、先輩移住者の体験談、先輩移住者のトークセッション
希望テーマごとのグループ相談
- ・オンライン移住相談
知識が豊富な定住支援員が行う移住相談を、窓口や電話に加え、令和2年度よりオンラインでも開始。現在は相談の3割がオンライン。
- ・地域コーディネーターが地域密着情報を！
市内16小学校区のうち、15校区に地域コーディネーターを配置し、転入希望者に地域密着情報（買い物する場所、子育て環境、地域行事）を提供。相談のほか転入後のフォローアップ
- ・転居相談会
令和4年度から、自然豊かな地域へ（7校区）の移住促進を目的に、二段階移住（市街地⇒人口減少地域）に向けた相談会を実施。
- ・海山暮らしの魅力の紹介
- ・物件の探し方の紹介
- ・地域コーディネーターによる相談を実施。

	<p>6. 情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定住促進WEBサイト「糸島生活」年間ページビュー：314,121件(R5)
<p>考 察</p>	<p>糸島氏は立地が海に近く、大都市に隣接している、地域コミュニティが伝統文化で地域の絆があり住みよい街である点が本市によく似ている。</p> <p>コロナ禍以降移住者が増加している点も本市と同じである。</p> <p>一方、異なる点は、大学の移転と豊かな海産物や農産物で、生鮮食品は市内産で賄えるほどと、宅地が近隣市の半値と以下という安さである。</p> <p>糸島市は、そういった魅力の発信と、様々な施策を組み合わせることで特に若い世代の移住促進に力を入れている。</p> <p>また、地域コミュニティがしっかりしているので、地域に溶け込めるよう、小学校校区に地域コーディネーターを配置し、転入希望者へ地域密着情報を提供し、転入後のフォローアップをしている点は大いに参考になる。</p> <p>また、職員は、女性ばかりで、生活者の目線の施策が多く、トライ&エラーを繰り返してきめ細かい定住支援をされている点も興味深い。</p> <p>本市も、コロナ禍以降、首都圏に比べて土地の価格は低く手に届く物件なところと、海や里山が近く自然が多い、茅ヶ崎市というブランドイメージが先行しているが、首都圏回帰も始まっており、定住施策が重要であると考えている。</p> <p>これまでシティープロモーションに力を入れてきたが、安心して暮らしを送るためには、人と人を繋ぐ施策が重要となってくる。そういった観点から糸島市の定住促進施策や職員の考え方や視点は大いに参考となった。</p> <p>【視察時の様子】</p> <div data-bbox="400 1238 1426 1662" data-label="Image"> </div>
<p>備 考</p>	